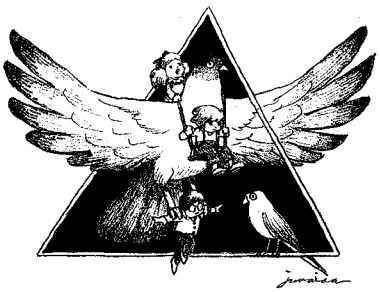
朝日 俳壇 歌壇



〈日曜日のブローチ　05〉　junaida

高山れおな選

寅さんは旅に出たまま大和の忌　（鎌ケ谷市）みやこまる

本当の事が言えたよ四月馬鹿　（いわき市）渡辺真由美

☆隠沼の鯉が顔出す花筏　（豊前市）三原　逸郎

この世界支へたる亀鳴きにけり　（八王子市）額田　浩文

四月てふ黄金の扉開きけり　（長崎市）下道　信雄

啄木忌この歳にして面皰とは　（栃木県壬生町）あらゐひとし

六甲より花のため息降り来たり　（淡路市）神木　一枝

竹尺に母の名のあり四月尽　（神奈川県二宮町）丸山　敬子

水脈を追ふ水脈の光や春惜しむ　（東京都杉並区）齊藤　保志

霞立つ空に浅間の白浮かぶ　（藤岡市）飯塚　柚花

【評】みやこまるさん。寅さんと大和の違いは最期の様子がはっきりしているか否か。旅に出たまま帰らなかったところは両者とも同じ。渡辺さん。本当に本当？嘘だけど本当？　どちらにしても本当。三原さん。すこし不気味な琳派風の世界。

小林貴子選

赤子洗ふ妻に手を貸す桜どき　（松本市）笠井　津伍

バーボンを呷りうそぶく三鬼の忌　（富士見市）阿部　泰夫

入学や姿勢からして宝塚　（京都市）石田　俊雄

目つむれば今日の光の虚子忌かな　（東京都足立区）望月　清彦

数多より和名の薔薇を選りて買ふ　（大阪市）上西左大信

耕人の席は田の畔海苔結び　（佐賀県有田町）池田　覚

滝口になりてやうやく花筏　（日立市）加藤　宙

吾には吾の春には春の仕事あり　（玉野市）北村　和枝

大谷家の小さな鰐蝌蚪生る　（周南市）藤本トシ子

関税のオウンゴールや落椿　（福島県伊達市）佐藤　茂

【評】一句目、赤ちゃんの入浴。「沐浴」の語を使わなかったところが素朴で初々しい。二句目、「うそぶく」には多彩な意があるが、どれも西東三鬼に似合う。三句目、キリッと背すじを伸ばしたあの姿勢。四句目、光満ち溢れる四月八日。

長谷川櫂選

花の屋西を想へば吉野山　（東京都中野区）吉田　徹夫

汀子なき年を重ねて散る桜　（北名古屋市）月城　龍二

☆隠沼の鯉が顔出す花筏　（豊前市）三原　逸郎

県境をいつか越えたり桜狩　（長野市）縣　展子

復活祭その前にあるひとつの死　（横浜市）小林　瑞枝

しやぼん玉高く育休最終日　（袋井市）本多　りつ

夢にきて杏子先生花万朶　（小山市）宮澤　歌子

入学やこの大いなるジャンプ台　（長崎市）下道　信雄

火の形波の形に春愁　（市川市）をがはまなぶ

花吹雪たつぷり浴びて八十路へと　（東京都中央区）久塚　謙一

【評】一席。東京の桜を眺めつつ西の桜を思う。眼前の桜と心の中の花。二席。あれから三年。来る年ごとに桜は咲いて散っていった。三席。隠沼は草隠れの沼。沼の主の大鯉だろう。十句目。やがて訪れる八十歳への自祝の一句。七十九歳。

大串章選

春田打つ八十歳の誕生日　（静岡県河津町）岩城　紀子

円墳に流れし時間花すみれ　（川越市）大野宥之介

花は葉に老いゆく日々の早きこと　（本巣市）清水　宏晏

来年のことまで思ふ花見かな　（名古屋市）久野佳奈代

花の径抜け現世に戻りけり　（玉野市）勝村　博

花筏微動だにせぬ疏水かな　（京都市）室　達朗

農具小屋覆ふ勢ひの桜かな　（長崎市）徳永　桂子

桜餅食うて昭和に戻りけり　（大村市）小谷　一夫

山火事に急き立てられて鳥帰る　（八幡市）小笠原　信

蕨来る戸主は百歳迎へたる　（川西市）糸賀　千代

【評】第1句。「春田打つ」が明るく力づよい。「八十歳の誕生日」に拍手、健やかにお過ごしください。第2句。遥か昔に造られた円形の古墳、花菫は何時頃から咲き始めたのか。第3句。歳月人を待たず。瞬く間に花は葉となり人は年を取る。

うたをよむ　歌が白球を追う時

廣野　翔一

俳句と短歌の流れを辿ると正岡子規に出会う。その子規は野球を愛し、日本での野球の歴史を辿ると出会う存在だ。その三つの歴史が交わる時が来た。

年度が変わる3月下旬に俳人と歌人の草野球対決を見てきた。俳人は詠売巨大軍、歌人は文明レッドライツというチームを組み、グラウンドの上で対峙した。始球式に「ホトトギス」主宰の稲畑廣太郎氏を迎えた一戦は、12対10で詠売巨大軍が制した。試合後に俳句雑誌「翻車魚」のウェブサイトにて選手たちの俳句・短歌がそれぞれ掲示された。

きっとまた発明できる　ぼてぼてのゴロはこけたら安打になって　平出奔

流星のようにレフトへ飛んでいく白球　あたふたするしかないな　橋本牧人

グラウンドの上でこける走者や、打球を見送る内野手の姿から、そこにかけがえなき一球があったことを、躍動感をもって思いださせる。そして、歌人が白球を追う時、歌もまた白球を追うことができる。自分がグラウンドの内に居るか否かは重要ではなく、グラウンドにて歌を当事者たらせることが大事である。

大滝和子の第一歌集『銀河を産んだように』には「白球の叙事詩」という連作がある。野球観戦の際の視界や思考が詩化されている。

バッターは打席に素振りす　待つという事は烈しき能動なるを

歌が白球を追いかける瞬間はいくつあっても美しい。子規が味わった瞬間を私たちも何度だって味わえる。（歌人）

風信

第69回現代歌人協会賞　金田光世さんの第1歌集「遠浅の空」（青磁社）と久永草太さんの第1歌集「命の部首」（本阿弥書店）に決まった。前年度刊行の新人歌集が対象。

第23回前川佐美雄賞　ながらみ書房主催。加古陽さんの歌集「夜明けのニュースデスク」（ながらみ書房）に。第33回ながらみ書房出版賞は藤澤幸男さんの歌集「はる」に。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。